

27 腎癌のsuperoxide dismutase(SOD)活性

中田瑛浩¹⁾ 久保田洋子²⁾ 石田 修¹⁾
吉田泰行¹⁾ 原野和義¹⁾ 大嶋秀一¹⁾

- (1) 千葉徳洲会病院
2) 山形県立置賜総合病院泌尿器科)

【目的】ヒトの細胞質にはCuZn-SODが、ミトコンドリアにはMn-SODが夫々存在する。ある種の腫瘍組織では、これらのSOD活性が低下しており、癌のイニシエーション、プロモーションと関連すると推測されている。筆者らは腎癌患者のSODを検索し、その臨床的意義を明らかにしようと試みた。

対象および方法：12例の腎癌患者に腎摘出術を施行した。13例の腎癌患者には腎動脈塞栓術を行い、1週間後に腎摘出術を施行した。癌組織、非癌組織のSOD活性を測定し¹⁾、臨床的なデータと対比検討した。

【結果】癌組織と非癌組織で、両SOD活性に有意差はなかった。患者の年齢、癌のgrade, stageはSOD活性に影響を及ぼさなかった。腎動脈塞栓術は非癌組織のすべてのSOD活性を低下させたが、癌組織ではCuZn-SODが軽度(p<0.05)低下したに過ぎなかった。

【考察および結論】腎癌の病因は勿論、不明であるが、SOD活性の異常が発ガンに関係するとは考えられなかった。正常の腎組織では腎虚血がCuZn-SOD, Mn-SOD活性を低下させることが明らかになった。

- 1) Oyanagui Y: Reevaluation of assay methods and establishment of kit for superoxide dismutase activity. Anal Biochem 142: 290-296, 1984.

28 高気圧酸素治療を用いて保存的に治療し得たウェルシュ菌による化膿性関節炎の一例

諸岡浩明 若杉義隆 澄川耕二

(長崎大学医学部・歯学部附属病院麻酔科)

【はじめに】ウェルシュ菌(Clostridium perfringens)は下水、河川、海、耕地などの土壤に広く分布するガス壊疽の代表的な起炎菌であるが、ヒトや動物の腸内常在菌であり、急性腸炎や食中毒の起炎菌でもある。我々は、ウェルシュ菌による化膿性関節炎を高気圧酸素治療を併用して保存的に治療し得たので報告する。

【症例】89歳女性、右変形性膝関節症にて10ヶ月前より隔月でヒアルロン酸の関節内注入を受けていた。今回関節内注入の翌日膝の強い痛みを訴え来院された。右大腿中央から下腿近位1/3の熱感と腫脹を認めたが、握雪感は認めなかった。関節液穿刺で黄色混濁液約90mlを吸引し、鏡顕でグラム陽性桿菌、培養にてウェルシュ菌が検出された。化膿性膝関節炎、ガス壊疽疑いにて当院整形外科入院となった。入院時の検査所見では、白血球上昇、貧血、CRP上昇、BUN、クレアチニン値上昇を認めた。既往歴に高血圧症、腹部動脈瘤手術、虚血性心疾患に対する冠動脈ステント留置術があり抗凝固薬を服用されていた。全身麻酔下の滑膜切除を含むデブリードマンの適応を検討したが、多くの合併症を有する超高齢者であったため侵襲の少ない治療法を選択することにした。入院当日、右膝関節内外側に局所麻酔科にドレーンチューブを挿入しピペラシリンNaの静脈内投与を開始した。さらに同日から高気圧酸素治療を6回施行したところ局所の腫脹は徐々に軽減した。入院後11日目からクリンダマイシンを追加投与し、入院後19日目から薬剤をメロペネム三水和物へ変更し経過を観察した。入院5週間後にはドレーンを抜去したが感染の再燃は認めなかった。

【結語】ウェルシュ菌による化膿性関節炎の一例を経験した。基礎疾患がある高齢者であったが、高気圧酸素治療を併用して保存的に治療し得た。化膿性関節炎に高気圧酸素治療は試みてよい治療法と思われた。